

農業大学で知識を深める

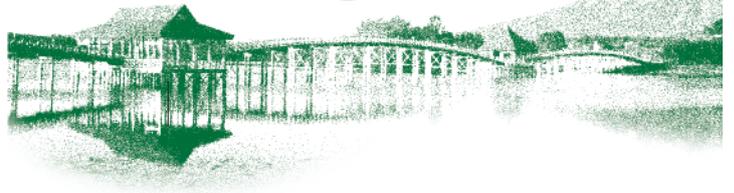
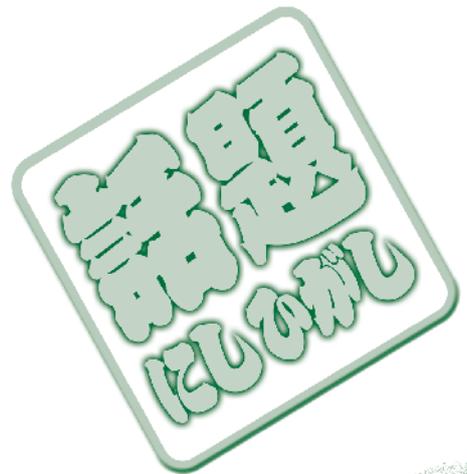
「鶴田町農業大学講座」が2月18日（火）から20日（木）まで豊明館で開催され、参加した町民が講座や視察研修を通して、生産技術の向上と経営安定について理解を深めました。

講座では、昨年つるたスチューベンが登録されたGIを活用する地域振興について、りんごの新たな栽培方法である「高密度植」や将来有望な果樹の品種などについて関係者が講義しました。

19日（水）には、西目屋村の「ブナの里白神神社」を訪れ、当町でも冬期における農家収入拡大の一策として注目している、雪を利用した天然の冷蔵庫である「雪室」について視察を行いました。



△ GI の活用講義を受ける参加者たち



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。

ツルツルの日の“はげ”しい熱戦

「ツルツル」の語呂に合わせて2月22日（土）、ツル多はげます会（須郷貞次郎会長）の春の例会「新春の有多毛」が山田温泉で開催されました。

32回目となる春の例会には町内外から約40人が出席。冷却シートをハゲ頭めがけて投げる「ハゲピタダーツ」や、恒例となったひもが付いた吸盤を頭部に付け、引っ張り合う吸盤綱引きトーナメントなどが行われました。トーナメントでは、行事の「はげよーい、のこった！」の掛け声で熱戦が繰り広げられ、弘前市の太田守さんが2回目の優勝を飾りました。

はげます会では現在、「^{ツルツル}2020 神社」建立を目指して資金を集めています。



△ “はげ”しい熱戦が繰り広げられた吸盤綱引きトーナメント

学びやを離れ、それぞれの道へ

3月13日（金）、鶴田中学校（吉田英人校長）で卒業証書授与式が行われ、卒業生118人（男59人、女59人）が卒業証書を手に入れました。

今年の卒業式は新型コロナウイルスの感染を防ぐために卒業生と保護者、教職員のみで行われました。式では、吉田校長が「これからは自分で選んだ道を歩き出します。何度転んでも自分の力で立ち上がり、多少のことではぐらつかないしっかりとした自分を作り上げてください」と式辞を述べました。

卒業生代表の原田美咲さんが「私たちはこれからそれぞれの新しい道を進んでいきます」と決意を述べた後、卒業生全員で合唱曲「道」を歌い、思い出の詰まった学びやに別れを告げました。



△保護者と恩師に見守られながら退場する卒業生たち



△新しくなったJR 五能線鶴泊駅舎

生まれ変わった鶴泊駅舎

昨年9月より行われていました、老朽化に伴うJR五能線鶴泊駅舎の改装が終了し、3月13日（金）に営業を開始しました。

新しく生まれ変わった駅舎には、大きな窓に町名からとったツルがデザインされているほかに、駅名をアルファベットで表記するなど観光客の利便性も考えられています。また、駅舎は木造平屋建てで広さは15.5㎡になっており、駅舎内には木製のベンチのほか、時刻表や運賃表が設置されています。

鶴泊駅は、近くに「道の駅つるた鶴の里あるじゃ」があることから、地元住民だけでなく観光客の利用も盛んです。

子どもの教育環境充実のために

3月17日（火）、鶴田町商工会青年部（あきら下山央部長）が町役場を訪れ、新生・鶴田小学校の教育環境充実に役立ててほしいと、町に現金13万円を寄付しました。

寄付金は青年部の部員24人から募ったもので、下山部長は「これから部員の子どもたちもお世話になるし、われわれもお世話になった学校。新しい鶴田小学校の教育に期待しています」と話していました。

目録を受け取った相川町長は「頂いた寄付金は新しい小学校の校長と協議していき、子どもたちのために大切にに使わせていただく」と感謝を述べていました。



△相川町長に目録を手渡す下山部長（右から3人目）